

1421  
323

大正六年度業務工程報告

福井縣工業試驗場



始



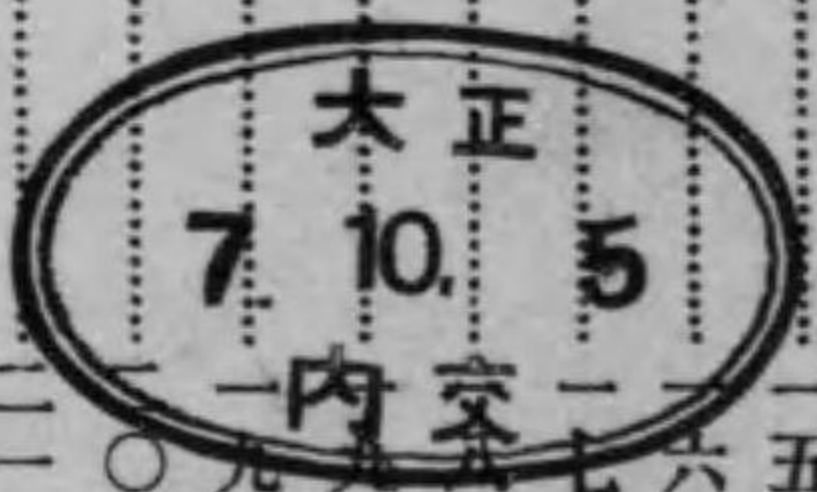


1421-323

# 大正六年度業務工程報告

## 目次

緒言.....	一	柞蠶縮緬試織.....	一三
佛蘭西縮緬製織.....	二	生糸柞蠶交織物試織.....	一四
縞縮緬試織.....	二	紙緯羽二重試織.....	一五
綾縮緬試織.....	三	紙壁織試織.....	一六
變り縮緬試織.....	四	解織紙緯羽二重試織.....	一七
シヨルセツト試織.....	五	紙系蚊張地試織.....	一八
シヨルセツト試織.....	六	絹紡入縞羽二重試織.....	一九
片縮「シヨルセツト」試織.....	七	富士絹試織.....	二〇
ワッファヌルシヨルセツト試織.....	七	透綾試織.....	二一
縞縮緬試織.....	八	縞甲斐絹試織.....	二二
縞絹縮緬試織ノ一.....	九	玉虫田斐絹試織.....	二三
縞絹縮緬試織ノ二.....	一〇	人造絹糸入綿縞試織.....	二四
柞蠶朱子織試織.....	一一	藥囊地試織.....	二五
柞蠶縞壁織試織ノ一.....	一一	縞「シフォン」製織.....	二六
全上織物試織ノ二.....	一二	綿壁織試織.....	二七





光澤糸朱子織試織	二五
綿「シフォンクロス」試織	二六
綿砂子織試織	二七
法官服地製織	二八
黃絹糸羽二重製織ノ一	二九
黃絹糸羽二重製織ノ二	二九
羽二重試織	三〇
刺繡ノ應用	三一
機械ノ増設	三一

研究生ノ養成	三二
依頼加工	三二
西洋洗濯講習	三六
地方當業トノ聯絡	三七
職員管内出張調	三七
職員管外出張調	三九
場員職工研究生	四〇
職員	四〇

# 大正六年度業務工程報告

福井縣工業試驗場

緒言

當六年度下半年、本縣機業史中持筆大書スヘキ活躍期ニシテ所謂變リ物續出シ特ニ輸出向縮緬ハ日々産額増進ノ機運ト向ヒ之ニ伴フ燃糸業ノ振興ヲ促進シ既設工場ノ増鍾ニ次クニ新工場ノ設置ヲ以テシ輸出綿織物ノ製織亦盛ニシテ資本ノ合同ニヨル比較的大規模ノ工場經營計畫セラル、等潑測タル氣分ハ斯業界ニ充満セリ、此間ニ處シテ本場ハ從來ノ方針タル強燃糸應用織物ノ試驗ヲ一層主要ナル問題トシ縮緬、綾縮緬、經緯縮緬、各種變縮緬類ノ試織及柞蠶應用ノ強燃糸物等ノ講究ニ意ヲ用ヒ其成績ノ周知及實地指導ニ力ヲ盡シタリ又本場設備ノ整理機械ハ木縣機業界ノ現況ニ適合セルカ爲メ加工依頼品ノ激増ヲ見ルニ至レリコハ一面ニ於テ本場カ推奨セル變リ物増加ノ反響トモ認ムルコトヲ得ヘク其工程ニ就テハ可及的丁寧迅速ヲ旨トシ依頼者ノ希望ニ添ハンコトヲ期シタリ

木場業務ノ大體以上ノ如シ左ニ其ノ内容ノ要點ヲ報告セントス



▼佛蘭西縮緬製織

大正三年度以來本場カ大聲疾呼シテ其ノ有望ヲ説キ試織シテ範ヲ地方機業家ニ示シタル本織物ハ本年度ニ入りテ全ク其ノ地歩ヲ占メ日々發展ノ趨勢ニ赴キツ、アリ當業者又斯業ニ從事セント欲シテ來リ問フ者常ニ絶エサルヲ以テ其ノ説明ニ資スヘク更ニ首題ノ織物ヲ製織セリ

原料 經糸十四、五「デニール」二本合セ

緯糸十四、五「デニール」三本合セ

左右燃共三千二百回(一米ニ付)

糊付 水一升五合ニ付布海苔十二匁白蠟六匁「フィルムローゼ」十匁「ロード」油少量

密度 箆一寸間百枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間百十八本打込

巾三尺、長十三丈四尺、量目二百八十匁

巾三尺、長十二丈四尺、量目五百三十五匁

巾二尺六寸七分、長十二丈二尺、量目四百六匁

機臺 津田式二丁杼力織機

製品ハ七、四匁付ニシテ品位良好ナリ

▼縞縮緬試織

本織物ハ經糸ノ粗密ニ由リ縞ヲ現出セシメタル輸出向縮緬ニシテ末タ本縣當業者間ニ製織セラレサルモ

ノナルニ因リ茲ニ範ヲ示スヘク之ヲ試織セリ

原料 經糸十四、五「デニール」二本合セ

緯糸十四、五「デニール」二本合セ

左右燃共三千百回(一米)

前者ニ全シ

糊付 箆一寸間百枚

經糸一羽地二本通縞四本通

緯糸一寸間百十四本打込

巾一尺九寸五分、長十五丈、量目二百六十匁

巾一尺九寸四分、長十四丈三尺、量目二百七十五匁

巾一尺八寸、長十三丈三尺、量目二百七十五匁

今泉式二丁杼力織機

▼綾縮緬試織

本織物ハ輸出縮緬ニ組織上ノ變化ヲ應用シ當業者ノ參考ニ資シタルモノナリ

原料 經糸十四、五「デニール」二本合セ

緯糸十四、五「デニール」二本合セ

燃數左右共千八百回(一米)

前者ニ全シ

糊付 箆一寸間七十枚



經糸一羽四本通

緯糸一寸間百本打込

巾二尺三寸、長七丈、量目百七十匁

巾二尺三寸、長六丈四尺、量目三百五匁

巾一尺九寸、長六丈三尺、量目二百十五匁

津田式二丁杼ドビー付力織機

整 織 仕 機 組  
上 上 臺 織

	x		x		x
		x		x	
x		x		x	
	x		x		x
x		x		x	
	x		x		x
x		x		x	
	x		x		x
x		x		x	
	x		x		x

▼變り縮緬試織

本織物ハ左右強撚糸ヲ經糸ニ各二本宛配列シ緯糸ハ無撚糸ヲ用ヒ組織ヲ四枚綜統ノ破斜紋織トナシタルモノニシテ其ノ目的ハ一丁杼ニテ特種組織ノ縮緬ヲ得ントスルニアリ

原 料

經糸十四、五「デニール」二本合セ

撚糸左右共三千五百回(一米)

緯糸十四、五「デニール」二本合セ

水一舛ニ付「フィルムローゼ」二十匁

布海苔二匁白蠟二匁

糊 付 密 度

經糸一羽二本通

緯糸一寸間二百本打込

巾一尺九寸五分、長十二丈五尺、量目百五十八匁

巾一尺九寸、長十二丈二尺、量目三百八十一匁

巾一尺八寸、長十二丈、量目二百七十四匁

以上三點ハ輸出向縮緬ニ多少ノ技巧ヲ加ヘ當業者ノ參考ニ資シタルモノニシテ内縮緬及綾縮緬ハ較ヤ會心ノ製品ヲ得タルモ變り縮緬ハ末タ充分ナル結果ニ到達スルコト能ハス更ニ研究ノ要アルヲ認ム

▼「ジヨルゼット」試織

本織物ハ經緯糸共強撚糸ヲ使用セルモノニシテ海外ニ於ケル最新流行織物ナリト聞ク本縣ニ於テモ早晚佛蘭西縮緬ニ次テ起ルヘキ有望織物ト信スルヲ以テ其ノ範ヲ當業者ニ示スヘク試織セルナリ

原 料

經糸一〇六「デニール」二本合セ

左右撚共三千二百圖(一米)

緯糸 全 上

水一舛ニ付「フィルムローゼ」二十五匁蠟二匁油少量

箴一寸間七十枚

經糸一羽二本通

整 經

巾二尺二寸、長十四丈、量目百三十五匁



織 上 巾二尺一寸五分、長十三丈三尺、量目二百五十七匁  
 仕 上 巾一尺八寸、長十二丈三尺、量目百九十二匁  
 機 臺 字野式二丁杼力織機  
 以上ノ設計ニテ五匁附ノモノヲ得タリ品位良好ナリ

▼縞入「ジヨルゼット」試織

「ジヨルゼット」ハ普通無地ナレ共更ニ之ニ縞ヲ配シテ試織セルモノナリ  
 原 料 經糸地糸一〇、六「デニール」二本合セ  
 燃數左右共三千二百回(一米)  
 縞糸十四、五「デニール」二本合  
 緯糸一〇、六「デニール」二本合  
 燃數左右共三千二百回(一米)  
 糊 付 前者ニ全シ  
 密 度 箆一寸間七十枚  
 經糸一羽二本通  
 整 經 緯糸一寸間百三十五本打込  
 巾二尺二寸、長十四丈五尺、量目二百六十七匁  
 織 上 巾二尺一寸八分、長十三丈八尺、量目三百〇一匁  
 仕 上 巾一尺八寸、長十二丈、量目二百二十四匁  
 機 臺 字野式二丁杼力織機

製品ハ六、二匁付ニシア一種妙味ヲ有スル織物ヲ得タリ果シテ時好ニ適スルヤ否ヤハ末タ知ルニ由ナシ

▼片縮「ジヨルゼット」試織

本織物ハ一丁杼ヲ以テ「ジヨルゼット」類似ノ織物ヲ得ント欲シ試織セルモノナリ  
 原 料 經緯糸共十四、五「デニール」二本合セ  
 燃數三千二百回(一米)右燃  
 湖 付 水一舛ニ付「フィルムローゼ」三十匁生熟五匁「ロード」油少量  
 密 度 箆一寸間七十五枚  
 經糸一羽二本通シ  
 緯糸一寸間百二十六本打込  
 整 經 巾二尺一寸七分、長十四丈七尺、量目百九十四匁  
 織 上 巾二尺一寸、長十四丈、量目二百九十七匁  
 仕 上 巾一尺八寸、長十二丈、量目二百四十二匁  
 機 臺 大橋式力織機  
 製品ハ普通「ジヨルゼット」ニ似テ非ナル一種ノ強燃織物ニシテ該織物ニ代用シ得ルヲ信ス目付ハ六、七付ナリ本織物ハ經緯糸共同方向ニ燃ラレタル糸ヲ使用セルカ燃ノ方向ヲ異ニシ即チ經右燃、緯左燃ノ強燃糸トシテ製織スルトキハ又一種外觀ヲ異ニスル趨縮状態ヲ呈スルヲ見ル

▼「リップブルジヨルゼット」試織

「リップブルジヨルゼット」トハ假リニ命名セル名稱ニシテ普通「ジヨルゼット」ノ經糸中左右燃ノ一方ヲ



無燃糸ニ代用シテ二本宛併列シ緯糸ニハ左右強燃糸ヲ又二本宛併列セルモノナリ

原料 經糸十四、五「デニール」二本合

及全糸ヲ右燃ニ強燃セルモノ燃數三千百回

緯糸十四、五「デニール」二本合セ

左右燃共三千百回

密糊 全上 篋一寸間七十枚

經糸一羽二本通

整理 緯糸一寸間百二十六本打込

織上 巾二尺一寸、長十三丈、量目百七十六匁

仕上 巾二尺八分、長十二丈六尺、量目二百八十一匁

機臺 巾一尺八寸、長十二丈、量目二百二十九匁

製品ハ普通「ジョルゼット」ト幾分布面ノ状態ヲ異ニスルモ無燃糸ノ爲メニ光澤ヲ有シ一種ノ妙味ヲ帶

ブ現付ハ六、三匁付ナリ  
本織物モ亦本縣重要織物ノ位置ヲ占ムルニ至レリ當業者ノ來リテ製造法ヲ問フモノ相亞クヲ次<sup>ハ、</sup>其ノ範ヲ示スヘク試織セルナリ

▼絹 紬 試織

原料 經糸柞蠶糸三十六「デニール」二本合セ

緯糸 全糸 三本合セ  
水一舛ニ付布海苔十二匁白蠟六匁膠三匁「フィルムローゼ」二十匁「ロード」油少量

密糊 篋一寸間六十枚

整理 緯糸一寸間百十本打込

織上 巾一尺九寸五分、長十三丈、量目二百九十五匁

仕上 巾一尺九寸四分、長十二丈七尺、量目五百七十匁

機臺 巾一尺八寸、長十二丈三寸、量目四百五十四匁

▼縞絹紬試織ノ一

本織物ハ當業者ノ依頼ニヨリ試織セルモノニシテ普通縮緬ニ染糸ヲ配シ縞ヲ出シタルモノナリ

原料 經糸柞蠶糸三十六、五「デニール」二本合セ

緯糸 全上二本片

密糊 前者ニ全シ

度付 篋一寸間七十枚

經糸一羽二本通



緯糸一寸間百三十八本打込  
 巾二尺三寸、長十三丈、量目二百九十五匁  
 巾二尺二寸四分、長十二丈五尺、量目七百七十二匁  
 巾二尺一寸四分、長十二丈二尺、量目五百五匁  
 田淵式力織機

▼縞絹細試織ノ一

本織物ハ前者ト全シク絹紬ニ色縞ヲ現出シタルモノニシア其ノ異ル所ハ縞糸ニ生糸ヲ用ヒ且ツ該部ノ組織ヲ朱子織ト成シタルモノナリ

原料 經糸地柞蠶糸三十六、五「デニール」一本  
 縞生糸十四中二本片燃數四百五十回  
 緯糸柞蠶糸三十六、五「デニール」二本合  
 前者ニ全シ  
 篋一寸間八十枚  
 經糸地一羽二本通縞一羽五本通  
 緯糸一寸間百八本打込  
 巾一尺九寸五分、長十三丈、量目百九十五匁  
 巾一尺九寸、長十二丈八尺、量目四百四十二匁  
 巾一尺八寸、長十二丈六尺、量目三百二十七匁

機 臺 武田式「ドビー」付力織機

▼柞蠶朱子織試織

本織物ハ柞蠶原料ヲ用ヒテ朱子組織ニ製織セルモノニシテ目的ハ絹紬ノ變化織物ヲ得ントスルニアリ

原料 經糸三十六、五「デニール」柞蠶糸一本  
 緯糸 全 糸 二本合セ  
 前者ト全シ  
 篋一寸間八十枚  
 經糸一羽四本通  
 緯糸一寸間百五十本打込  
 巾一尺九寸五分、長十四丈、量目二百七十匁  
 巾一尺九寸五分、長十三丈七尺、量目七百八十五匁  
 巾一尺八寸、長十三丈三尺、量目五百九十五匁  
 「ジュードロッツシ」式「ドビー」付力織機

▼柞蠶縞壁織試織ノ一

本織物ハ當業者ノ依頼ニヨリ試織セルモノナリ前年度ニ於テ本場カ試織セル無地壁織ハ頗ル世ノ需要ニ適シ盛ニ製産セラレツ、アルヲ以テ更ニ之ニ縞ヲ配シ生糸ヲ用ヒ朱子組織ニテ鮮明ニ現出セシメタルモノナリ



原料

經系地柞蠶糸三六、五「デニール」二本合セ  
縞生糸一四、五「デニール」二本片撚  
撚數一米四〇〇回

緯糸柞蠶糸三六、五「デニール」四本及生糸  
一四、五「デニール」二本ノ壁撚糸  
下撚一〇四八回、上撚七四八回(一米)

糊度付

前者ニ全シ  
箆一寸間七十枚  
經系一羽二本通

緯糸一寸間九十六本打込

整經

巾二尺二寸五分、長二十六丈、量目九百九十枚

巾二尺二寸二分、長二十四丈五尺、量目一貫八百廿五枚

巾二尺一寸一分、長二十三丈六尺、量目一貫五百廿六枚

全上織物織織ノ二

本織物ハ畧ホ前者ト全一ナレトモ縞部分ノ組織ヲ朱子組織ノ代リニ綾組織ニナシ且ツ地糸ト同シク柞蠶糸ヲ縞糸ニ用ヒタルモノナリ

原料

經系地三六、五「デニール」柞蠶糸一本

緯糸柞蠶糸三六、五「デニール」四本及生糸

一四、五「デニール」二本ノ壁撚糸  
撚數下撚一〇四八回上撚七四八回(一米)

糊度付

前者ニ全シ  
箆一寸間八十枚  
經系一羽二本通

緯糸一寸間百〇五本打込

整經

巾一尺九寸、長十三丈、量目二百九十六枚

巾一尺八寸八分、長十二丈五尺、量目八百十枚

巾一尺八寸、長十二丈一尺、量目六百七十四枚

柞蠶縮緬試織

本織物ハ柞蠶糸ヲ原料トシテ輸出向縮緬ヲ製織セントシタルモノナリ

原料

經系柞蠶糸三六、五「デニール」一本

緯糸 全 糸 二本

撚數左右共一千八百回(一米)

糊付

前者ニ全シ



密度 箆一寸間八十五枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間百二十本打込

巾二尺一寸、長七丈二尺、量目百六十匁

巾二尺、長六丈七尺、量目三百十匁

巾一尺八寸、長六丈六尺、量目二百五十匁

機 臺 「ルーチー」四丁杼力織機

以上試織セル柞蠶變リ織物ノ成蹟ニ付一括シテ之ヲ評センニ縞絹袖ハ頗ル世ノ時好ニ投シ殊ニ縞部ヲ朱子組織ニナセルモノハ一層艶麗ニシテ現今盛ニ生産セラレツ、アリ朱子織ハ光澤ニ富ムモ一種固有ノ光澤ニシテ糸班等モ現ハレ易ク其ノ應用果シテ如何アランカ縞壁織又頗ル好評ヲ博シ相當生産ヲ見ルニ至レリ縮緬モ亦直ニ當業者ノ模倣スル處トナリ其商品見本ハ外國商館ニ於テ大ニ歡迎ヲ受ケ多大ノ注文ヲ寄セラレシ由ヲ耳ニセシカ強燃糸ノ供給意ノ如クナラサルヲ以テ未タ多大ノ生産ヲ見ルニ至ラサルモ將來本縣ノ重要ナル一産物トナルコト期シテ待ツヘシ

▼生糸柞蠶交織物試織

本織物ハ經緯糸ニ生糸ト柞蠶糸トヲ交織シ柞蠶糸ノ收縮性ヲ利用シテ以テ一種ノ皺縮織物ヲ得ントシテ試織セルナリ

原料 經糸生糸十四、中二本合セ  
柞蠶糸三六、「デニール」

緯糸生糸十四中二本合セ

柞蠶糸三六、五「デニール」

經緯糸共生糸ト柞蠶糸トヲ二本宛交互ニ配列ス

前者ニ全シ

箆一寸間七十枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間百二十五本打込

巾二尺五分、長十五丈、量目二百匁

巾二尺、長十四丈九尺、量目四百匁

巾一尺八寸、長十四丈八尺、量目二百八十七匁

機 臺 「ルーチー」力織機

製品トシテ一種ノ皺縮織物ヲ得タリト雖モ果シテ時好ニ適スルヤ否ヤ疑ナキ能ハズ  
次ニ經糸ハ前者ト同一設計ノ下ニ緯糸ヲ生糸ノ強燃糸トシテ縮緬ト同シク左右燃リ二杼宛交互ニ織リタルニ該試織品ハ緯糸ノ強燃ト經糸中ニ混シタル柞蠶糸ノ收縮性ト相俟テ一種ノ趣味ヲ有シ縮緬ト「ジョルゼント」トノ中間ニ位スル風合、觸感等ヲ具備ス

▼紙緯羽二重試織

本織物ハ經糸ニ普通絹糸ヲ又緯糸ニ紙糸ヲ應用セルモノニシテ鹽瀬羽二重風ニ製織セルモノナリ

原料 經糸十四、五「デニール」二本合セ  
緯糸一分二厘巾紙燃糸



糊付 密度

前者ニ全シ  
箆一寸間百枚

經糸一羽四本通

緯糸一寸間八十五本打込

巾一尺五分、長十四丈六尺、量目二百三十匁

巾一尺三分、長十四丈、量目六百六十匁

巾一尺、長十三丈八尺、量目六百二十五匁

整經 織上 仕上 機臺

田淵式力織機

製品ハ一見鹽瀬羽二重ニ彷彿ス唯タ其ノ欠點トスル處ハ味ノ粗硬ナルト皺ノ附キ易キニアリ然レトモ價甚タ廉ナルカ故ニ着尺肩裏地帶地等ニ應用セラル、ニ至レリ

▼紙壁織試織

本織物ハ經糸普通絹糸ニシテ緯糸ニハ紙糸ヨリ成ル壁摺糸ヲ使用セルモノナリ

原料

經糸十四、五「デニール」二本合セ

經糸五厘巾紙糸、附ケ糸十四、五「デニール」二本、

燃數下千三百回上七百回(一米)

前者ニ全シ

糊付 密度

箆一寸間百枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間九十九本打込

巾二尺五寸五分、長十五丈、量目二百五十六匁

巾二尺五寸、長十四丈、量目一貫百三十匁

巾二尺四寸、長十三丈六尺、量目九百五十七匁

整經 織上 仕上 機臺

大橋式力織機

製品ニ付テ見ルニ外觀純絹織物ト識別スルコト能ハス手觸ノ粗硬ト皺ノ生シ易キハ免レ難キモ精練仕上ノ注意ニ依リ大ニ此ノ欠點ヲ減スルコトヲ得本品ハ大ニ時好ニ適シ多數ノ注文殺到セルモ析柄摺糸業者最モ多忙ノ際ニシテ紙壁緯摺ノ余力ナク需要者ノ意ヲ充スルコト能ハサリシハ遺憾ナリキ

▼解織紙緯羽二重試織

本織物ハ經純絹糸、緯紙糸ニシテ解織トナシ捺染模様ヲ現ハセルモノナリ

原料

緯糸十三、六「デニール」二本片摺

燃數一米ニ付四百七十回

緯糸五厘巾紙摺糸

糊付 密度

箆一寸間百枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間八十本打込

整經

巾一尺、長七丈九尺、量目五十四匁



織 上 巾九寸五分、長六丈七尺、量目二百十匁  
 仕 上 巾九寸五分、長六丈六尺、量目百八十二匁  
 機 臺 平田式力織機

初メ先ツ假リニ粗織ヲ爲シ任意ノ模様ヲ捺染シ次テ先キノ緯糸ヲ解シツ、紙緯ヲ製織セルモノニシテ頗ル趣味アリ模様ノ撰擇宜シキヲ得ハ帶地、肩裏地等トシテ好適品ナラン

▼紙系蚊張地試織

本織物ハ當業者ノ依頼ニ因リ製織セルモノニシテ蚊張地ニ紙糸ヲ應用シ從來ノ麻蚊張ニ代用セントスルニアリ

原 料 經緯糸共七厘巾紙燃糸  
 燃數一尺ニ付百六十二回  
 密 糊 度 付 ナシ  
 筵一寸間三十枚  
 經糸一羽一本通  
 緯糸一寸間二十八本打込  
 巾一尺三分、長四丈四尺、量目四十匁  
 巾一尺、長四丈二尺、量目七十匁  
 巾一尺、長四丈量目八十匁  
 機 仕 織 整 經 上 上  
 臺 上 上 平田式力織機

製品ハ純白ニシテ清涼ノ快感ヲ與ヘ手觸リ又甚タ佳ナリ欠點トシテハ量目輕キニ失スルノ恨アルモ仕立後垂レニ重量ニ富ム他ノ布帛ヲ附スレハ之ヲ補フコトヲ得ンカ

▼絹紡入縞羽二重試織

本織物ハ經純絹糸緯ニ紡績絹糸ヲ使用セル縞羽二重ニシテ縞部ハ朱子組織ヲ應用セルモノナリ

原 料 經糸地十四、五「デニール」二本合セ  
 縞 全 二本片燃  
 燃數一米ニ付四百回  
 緯糸絹紡百五十番双糸  
 普通ノ羽二重糊  
 筵一寸間八十五枚  
 經糸一羽地二本通縞五本通  
 緯糸一寸間百五十本打込  
 巾一尺九寸五分、長十三丈、量目二百三十匁  
 巾一尺九寸、長十二丈四尺、量目五百七匁  
 巾一尺七寸五分、長十二丈三尺、量目四百四十九匁  
 機 仕 織 整 經 上 上  
 臺 上 上 木本式「ドビー」付力織機  
 本品ハ目下盛ニ當業者ニ依テ製織セラレツ、アリ

▼富士絹試織



本織物ハ經緯糸共絹紡單糸ヲ以テセル富士絹ナリ目下本縣產富士絹ノ多クハ經緯糸絹紡双糸若クハ經双糸、緯單糸物ナルヲ以テ更ニ價格ヲ廉ナラシメ且ツ特殊ノ味ヲ呈スル製品ヲ得ント欲シ試織セルモノナリ

原料 經緯糸紡績絹糸六十五號單糸

糊付 水一舛ニ付布海苔六舛「フィルムローゼ」十二舛「ロード」油少量

密度 箆一寸間七十枚

經糸一羽二本通

緯糸一寸間百本打込

整經 巾一尺九寸五分、長十三丈、量目二百三十舛

織上 巾一尺九寸、長十二丈六尺、量目六百三十五舛

仕上 巾一尺八寸、長十二丈三尺、量目四百八十六舛

機臺 田淵式力織機

本品ハ輸出向及内地向トシテ盛ニ需要セラル、ニ至レリ内地向ニハ多ク「モスリン」代用トシテ使用セラ

▼透綾試織

本織物ハ我國特有織物タル透綾ノ趣味ヲ輸出向織物ニ應用シ其ノ需要如何ヲ問ハントスルカ爲メ試織セルモノナリ

原料 經糸十五「デニール」二本片燃

燃數一米ニ付三百回

糊付 緯糸十五「デニール」二本合セ  
水一舛ニ付布海苔六舛「セラチン」二舛「ロード」油少量  
密度 箆一寸間九十枚  
經糸一羽二本通

緯糸一寸間百五十本打込

巾一尺九寸四分、長七丈、量目八十四舛

巾一尺八寸五分、長六丈六尺、量目百五十舛

巾一尺八寸、長六丈五尺、量目百四十四舛

機臺 津田式力織機

本品ハ練經、生緯ニシテ正ニ透綾ノ味ヲ呈セリ需要地ニ送リテ其ノ批評ヲ乞ハント欲ス

▼縞甲斐絹試織

本織物ハ當業者ノ依頼ニ因リ織成セルナリ本縣產織物モ練糸應用織物ニ漸進セルトスルハ自然ノ趨勢ナレハ從テ其ノ範ヲ示ス又必要事ナルヘシ

原料 經緯糸共十四、五「デニール」二本片

燃數一米ニ付百五十回

糊付 水一舛ニ付布海苔五舛「セラチン」一舛

密度 箆一寸間九十枚  
經糸一羽二本通



製品ハ畧ホ佳良ナルモ準備工程不完全ナリシニヤ製織頗ル困難ナリキ

機 織 整  
 上 上 經  
 巾二尺、長十三丈三尺、量目百三十六匁  
 巾一尺九寸五分、長十三丈一尺、量目四百十二匁  
 巾一尺九寸、長十三丈、量目三百九十五匁

宇野式力織機

▼玉虫甲斐絹試織

本織物モ當業者ノ依頼スル處ニシテ前者ト同一目的ニテ試織セルナリ

原 料  
 經緯糸共十四「デニール」二本片燃  
 燃數一米ニ付四百七十二回

糊 付  
 水一升ニ付布海苔十匁「ゼラチン」五匁「オリブ」油二匁  
 箆一寸間九十五枚

密 度  
 經糸一羽二本通

機 織 整  
 上 上 經  
 緯糸一寸間百三十本打込  
 巾一尺八寸七分、長十二丈七尺、量目百二十一匁  
 巾一尺八寸三分、長十二丈一尺、量目二百三十匁  
 巾一尺八寸、長十二丈、量目二百三十三匁

津田式力織機

製品佳良、工程亦容易ナリキ

▼人造絹糸入綿縞試織

本織物モ當業者ノ依頼セルモノニシテ商品見本ニ據リ之ト同一物ヲ試織センコトヲ托セラレタルナリ

原 料  
 經糸綿糸四十手  
 緯糸綿糸四十手及人造絹糸二百「デニール」

糊 付  
 水一升ニ付小麥粉三十匁白蠟三匁「ロード」油少量  
 箆一寸間六十枚

密 度  
 經糸一羽二本通

機 織 整  
 上 上 經  
 緯糸一寸間九十本打込  
 巾一尺、長六丈三尺、量目百匁  
 巾一尺、長五丈八尺、量目二百七匁  
 巾一尺、長五丈六尺、量目二百四匁

手織機

製品ハ畧ホ見本品ト全一ニシテ依頼者ノ満足ヲ得タリ

▼藥囊地試織

本織物モ亦當業者ノ依頼セルモノニシテ用途ハ軍需品ナリ完全ナル製品ヲ得ハ莫大ナル注文アリト云フ

原 料  
 經緯糸共十二番絹紡糸

糊 付  
 水一升ニ付小麥粉二十匁蠟三匁



密度 箆一寸間三十五枚  
 經糸一二本通  
 緯糸一寸間五十四本打込  
 巾二尺六寸、長二十六丈、量目二貫六百匁  
 巾二尺四寸五分、長二十四丈六尺、量目四貫三百匁  
 機 織 上 木本式力織機  
 製品ハ完全ニシテ現定ノ検査ニ合格セリ

▼縞「シフォン」製織

本織物ハ當業者ノ參考用ニ製織セルモノナリ  
 原料 經緯糸共十四、五「デニール」一本燃  
 燃數一米ニ付千八百回  
 縞糸二本片燃、燃數一米四百回  
 水一舛ニ付布海苔六匁「フィルムローゼ」八匁「ロード」油少量  
 密 糊 付 箆一寸間百十枚  
 經糸地一羽一本縞二本通  
 緯糸一寸間百二十本打込  
 巾二尺九分、長十三丈、量目八十五匁  
 巾二尺八分、長十二丈六尺、量目百三十一匁  
 巾二尺五分、長十二丈五尺、量目百二十五匁  
 機 織 上  
 仕 織 上  
 上 經

機 臺 齋外式力織機

▼綿 壁 織 試 織

本織物ハ注文品ニシテ用途ハ窓掛、製織後本場備付刺繡機械ニテ適宜ノ模様ヲ刺繡セントスルモノナリ  
 原料 經糸綿糸百二十番双糸「シルケット」  
 緯糸綿糸二十手三本付糸百番瓦斯糸  
 燃數一米ニ付下七百回上三百二十回  
 水一舛ニ付小麥粉二十匁蠟二匁「ロード」油少量  
 密 糊 付 箆一寸間九十枚  
 經糸一羽三本通  
 緯糸一寸間四十八本打込  
 巾二尺六寸五分、長六丈四尺、量目四百六十匁  
 巾二尺六寸五分、長四丈六尺、量目一貫百三十匁  
 巾二尺六寸五分、長四丈五尺、量目一貫百十五匁  
 機 織 上 手織機  
 製品ハ窓掛地トシテ甚タ適當セルヲ認ム

▼光澤糸朱子織試織

本織物ノ經糸ニ使用セル原料ハ俗ニ光澤糸ト稱シ綿糸ニ強糊ヲ施シ摩擦ニヨリテ強度ノ光澤ヲ發揮セシメタルモノニシテ本原料ハ力織機ニテ製織スルコト殆ト不可能ナリトシテ當業者ヨリ之カ製織試驗ヲ乞



ハレタルモノナリ

原料

經糸綿糸三十手光澤糸

糊付

緯糸綿糸四十手

密度

箆一寸間五十枚

整經

緯糸一寸間百八本打込

織上

巾二尺八寸五分、長十三丈、量目一貫六百五十三匁

仕上

巾二尺八寸、長十二丈三尺、量目二貫三百十匁

機臺

巾二尺八寸、長十二丈、量目二貫三百匁

津田式「ドビー」付力織機

製品ハ極メテ良好ニシテ工程モ亦容易ナリキ蓋シ營業者ニテ製織至難ナリシニ拘ハラズ本場ニテ斯克容易ナリシハ準備工程ノ完全ナリシト兩口「ドビー」ヲ使用セル結果ナランカ

▼綿「シフォンクロス」試織

本織物モ營業者商品見本ヲ持參シ試織ヲ依頼セルモノニシテ設計次ノ如シ

原料

經糸綿糸八十番瓦斯糸二本ヲ諸燃トス

密度

燃數下千四十八回、上千百八十回

緯糸

全上

糊付

水一升ニ付「フィルムローゼ」二十五匁蠟三匁「ロート」油少量

密度

箆一寸間四十枚

整經

緯糸一寸間五十四本打込

織上

巾二尺六寸五分、長十六丈、量目六百六十匁

仕上

巾二尺四寸七分、長十五丈、量目一貫七十匁

機臺

巾二尺四寸五分、長十五丈、量目一貫八十匁

製品ハ畧ホ見本品ト同一ニシテ直ニ之ヲ依頼者ニ送付セリ

▼絹砂子織試織

本織物ハ夏洋服地トシテ試織セシモノニシテ衆庶ノ好評ヲ博セリ

原料

綿糸四十番三、六十番一、八十番一本

密度

燃ハ初メ四十番三ト六十番一ニテ壁燃ヲ造ル

緯糸

燃數下千八百回上千百七十回

糊付

更ニ八十番一ヲ引揃ヘテ燃ル八百回

密度

箆一寸間三十八枚

緯糸

經糸一羽二本通



整 經 緯糸一寸間四十五本打込  
 巾二尺四寸、長十五丈八尺、量目一貫三百二十六匁  
 織 上 巾二尺一寸八分、長十四丈八尺、量目二貫四百六十八匁  
 仕 上 巾二尺一寸、長十四丈、量目二貫三百十八匁  
 機 臺 木本式力織機

▼法官服地製織

本織物ハ法曹團體ノ依頼ニテ前年モ試織セルコトアリシカ又乞ニ依テ製織セルモノナリ

原 料 經糸十四、五「デニール」諸燃糸  
 糊 付 緯糸 全 糸 三本片燃  
 布海苔二%「ロード」油少量  
 密 度 箆一寸間八十枚  
 經糸一羽六本通  
 緯糸一寸間百二十本打込  
 整 經 巾一尺八寸、長四丈、量目百六十匁  
 織 上 巾一尺七寸七分、長三丈六尺、量目二百十六匁  
 仕 上 巾一尺七寸六分、長三丈五尺、量目百十九匁  
 機 臺 手織機  
 二百口「ジャカード」ヲ裝置シ所定ノ模様ヲ織リ出セリ

▼黃絹系羽二重製織ノ一

本織物ハ當業者ノ依托ニテ製織セリ

原 料 經糸黃絹糸十四、五「デニール」二本合セ  
 糊 付 緯糸全糸四本合セ  
 水一舛五合ニ付布海苔十二匁白蠟六匁「フィルムローゼ」十匁「ロード」油少量  
 以上ノ糊ニテ一度糊付  
 密 度 箆一寸間百枚  
 經糸一羽二本通  
 緯糸一寸間百九十二本打込  
 整 經 巾二尺五寸五分、長十三丈、量目二百七十四匁  
 織 上 巾二尺四寸八分、長十二丈三尺、量目六百七十七匁  
 仕 上 巾二尺四寸、長十二丈、量目四百六十八匁  
 機 臺 大橋式力織機

▼黃絹系羽二重製織ノ二

本織物ハ前者ト同一原料ニテ糊ヲ使用セスシテ製織セリ  
 原 料 經糸黃絹糸十四、五「デニール」一本  
 緯糸 全 糸 二本合セ



糊付 ナシ  
 度 箆一寸間九十枚  
 經糸一羽四本通  
 緯糸一寸間百八十本打込  
 整 經 巾一尺九寸五分、長十二丈三尺、量目百八十枚  
 織 上 巾一尺八寸七分、長十二丈三尺、量目三百七十枚  
 仕 上 巾一尺八寸、長十二丈、量目二百七十一枚  
 機 臺 平田式力織機  
 工程極メテ容易ナリキ

▼羽二重試織

本織物ハ東京蠶糸専門學校在學生某カ卒業論文ニ添ユル可ク依托セルモノニシテ製糸方法ヲ異ニセル甲乙二種ノ生糸ヲ採リ羽二重ヲ製織シ工程ノ最初ヨリ最後迄全一操作ノ下ニ其差異ヲ比較シタルモノナリ

原料 經糸十五「デニール」生糸二本合セ  
 緯糸十五「デニール」 四本合  
 普通ノ羽二重糊  
 箆一寸間百枚  
 經糸一羽二本通シ  
 緯糸一寸間百六十本打込

整 經 巾二尺、長七丈、量目百枚  
 織 上 巾一尺九寸五分、長五丈六尺、量目二百五十六枚  
 機 臺 宇野式力織機

製品ハ直ニ依頼者ニ與ヘ其志ヲ遂ケシメタリ  
 其他普通羽二重數十疋ヲ製織セリ之等ハ多ク新入職工又ハ研究生練習用ニシテ設計等異ル所ナキヲ以テ之カ記載ヲ省略ス

▼刺繡機ノ應用

刺繡機ノ運用ハ益々熟練シ其ノ獨特ノ技工ヲ發揮シツ、アリ概子輸出商館ノ注文ニヨル各種刺繡加工ニ従事シツ、アレトモ時トシテ内地向ニ應用スルコトアリ元來本機ハ本邦ニ其數少キモノナルカ故ニ之カ加工依頼多クシテ供給伴ハ充分依頼者ノ意ヲ充シ得サルハ遺憾トスル處ナリ

▼機械増設

本年度ニ於テ購求セシ機械ハ伊太利式燃糸機（群馬縣桐生町桐生機械株式會社製價格金九百五十圓）管卷機械（福井市兒玉善三郎製價格金百四十圓）絹用兩側二丁杼縫取裝置付力織機（佛國バルビエル會社製價格金七百五十圓）綿用原田式力織機（大阪市長瀬商店納入價格金四百三十七圓）等ナリトス伊太利式燃糸機ノ眞價ハ世已ニ定評アレバ茲ニ説クノ要ナカルヘシ管卷機械ハ十本掛ニシテ各錠個々ノ運動ヲナシ得ルヲ以テ便宜多シ絹用兩側二丁杼縫取裝置付力織機ハ極メテ精巧ナル機械ニシテ兩側共二丁杼裝置「ジャカード」裝置縫取裝置ノ何レヲモ備ヘ能ク各種ノ高等織物ヲ製織シ得本機ハ附屬部分ニ欠



クル處アリ運轉不能ナリシヲ本場ニ於テ破損ノ廉價ニテ購入シ研究ノ結果不足ノ部分ヲ補ヒ之カ機能ヲ發セシムルヲ得タリ綿用力織機ハ近來本縣ニ於テ綿織物モ盛ニ勃興シ又從來ノ如ク單ニ絹〇ノ設備ノミニテハ満足スルコト能ハサルヲ以テ先ツ綿設備ノ一着手トシテ之レヲ購求セルナリ之等ノ諸機械力直接間接ニ本縣當業者ニ利益ヲ與ユルノ多大ナルハ信シテ疑ハサル所ナリ

▼研究生ノ養成

本年度ニ於テ研究生トシテ入場セルモノ二拾名之等ノ研究生ハ何レモ相當ノ抱負目的ヲ以テ來リシモノナレハ在場中ハ専心研究ニ努力シ修了後ハ能ク修得セル技術ヲ實際ニ活用シ且常ニ本場ニ出入シテ指導ヲ受ケ以テ斯業界ニ貢獻スル所アラントス

▼依頼加工

本場ハ主動的ニ各種染織ニ關スル試験ヲ行フト同時ニ他動的ニ當業者ノ依頼ニ應シテ製織又ハ加工試験ヲ行フ依頼加工中特ニ注目スヘキハ整理ニシテ各種變リ物増加ノ結果依頼品ノ數量頓ニ増加シ現在工場ニハ狹隘ヲ感シタルヲ以テ來年度ニ於テ整理工場増築ノ不得止状態トナレリ

毛燒	大正五年度分	大正六年度分	増
ロール	七三、一三〇碼	六〇〇、〇七二碼	五二六、九四一碼
巾出シ	一七八、八一七全	七四七、二一七全	五六八、四〇〇全
計	七八、四八〇全	二四〇、九二七全	一六二、四四七全
	三三〇、四二七全	一、五八八、二一五全	一、二五七、七八八全

右ハ毛燒、ロール、巾出シ三工程ニ對スル前年度トノ整理數量比較表ナリ左ニ本年度依頼加工ノ要項ヲ掲出セン

▼依頼加工調  
毛燒依頼加工

碼	數	人員	回數	碼	數	人員	回數
五九九、七一一	一〇	七五二	三六〇	二	二	三	

「ロール」依頼加工

碼	數	人員	回數	碼	數	人員	回數
九一、八三〇	九	二四九	四〇六、九六四	一三	七六八	二四八、四三三	一三
							一二九

巾出シ依頼加工

碼	數	人員	回數	碼	數	人員	回數
六、〇四三〇	三	一四六	一八〇、四九七	五	三〇八		



傘	碼數	人員	回數	地	碼數	人員	回數
	二、〇二四	四	二				

ポリサージ依頼加工

綿織物	碼數	人員	回數	肩裏	碼數	人員	回數	地	碼數	人員	回數	綿織物	碼數	人員	回數
	一〇三、七五〇	四	二八		三三、四一五	三	一六						三、三四七	一	二

再斗依頼加工

本仕上依頼加工

綿織物	碼數	人員	回數	綿織物	碼數	人員	回數
	五、四二〇	四	一〇		五、七七五	八	一二

湯熨斗依頼加工

綿織物	碼數	人員	回數	綿織物	碼數	人員	回數
	一八、三八二	四	三〇				

生糸	數量	人員	回數	綿織物	數量	人員	回數
	五、〇五六	四	一一		一、四二四	二	二

撚糸依頼加工

絹	目方	人員	回數	絹	目方	人員	回數	布	人員	回數	絹	目方	人員	回數	綿織物	目方	人員	回數
	二、九五四	六	八		七、九六四	一九	四一					四五〇	一	一				
綿	目方	人員	回數	綿	目方	人員	回數	布	人員	回數	毛	目方	人員	回數	綿	目方	人員	回數
	三四、七三〇	一二	二八		四、二五〇	一四	二〇				二、七〇〇	五	五					

染色依頼加工

精練依頼加工

黄絹	目方	人員	回數	黄絹	目方	人員	回數
	九、八八九	一	五				

刺繡依頼加工



針	數	人	員	回	數
一四六、九八八		二			五八

西洋洗濯講習

本縣西洋洗濯ノ改良ヲ謀ランカ爲講師トシテ東京市小石川區原町瀧浦洗染工場主瀧浦潭氏ヲ招聘シ大正六年七月五日ヨリ全九日ニ至ル五日間本場内ニ於テ當業者ニ對シ首題ノ講習會ヲ開催セリ  
 講習生、受講希望者ハ福井市外七郡ニ亘リ總員數五十四名内福井市ノ三十一名ヲ最多トシ丹生郡ノ一名ヲ最少トス出席者ハ四十二名ニシテ福井市ノ廿七名之ニ冠タリ講習證受領者ハ二十八名福井市ノ十九名ヲ最多數トス  
 講習概目、五日間中第一日ヨリ第三日ニ至ル三日間ヲ講話ニ殘餘ノ二日間ヲ實習ニ充テ講話事項ハ洗濯工場設備要項、事務上ニ關スル注意、洗濯法一斑、汚點扱、ドライクリーニング(乾燥洗濯)カラ―ホワイトシヤツ等普通洗濯品ニ對スル作業上ノ注意(サ、ヲ取扱カルキ類使用上ノ心得)等ニシテ實習ハ當業者ノ質問事項ニ重キヲ置キ作業上困難ヲ感シツ、アルモノヲ選ヒテ之ヲ行ヒタリ講習時間外ニ於テモ瀧浦講師ハ市内重ナル洗濯工場ノ實況ヲ視察シ又當業者ハ講師ヲ其宿舍ニ訪問シテ懇談的考究ヲ怠ラス蓋シ談笑ノ間得ル所又少ナカラサリシナラン  
 講習ノ經過ハ斯様ニシテ終了ヲ告グ七月九日午後四時半證書授與式ヲ舉行セリ爾後西洋洗濯業者ノ作業振ヲ通覽スルニ少クモ作業ニ注意スル念慮ヲ増シ斯業改良心ノ勃興ヲ促シタルモノト認ム  
 講話ノ内容其他細目ニ就テハ載セテ昨年八月發行ノ(西洋洗濯講習録)ニ在リ重複ヲ避ケテ之ヲ省略ス

地方當業トノ聯絡

本場ト地方當業トノ聯絡ハ愈密接シテ日々多數ノ來場者ニ應接スルハ忙中快感ヲ禁スルコト能ハサルナリ彼ノ歐州戰亂開始以來本縣機業界ハ各種ノ變化織物ヲ創製シ工場ノ増設擴張續出シ實ニ空然ノ盛況ヲ呈シタリ此間當業者ハ概ネ來テ本場員ト懇談熟議ヲ重ネ或ハ見本品ノ試織ヲ依頼シ或ハ質疑ヲナシテ工夫ニ新方面ヲ開ク本場又試製品見本ニ解説ヲ付シテ普ク之ヲ當業者ニ配布シ以テ成績ノ一端ヲ周知セシム  
 最近殊ニ著シキハ燃糸業ノ勃興ニシテ本場カ數年前ヨリ其必要ヲ唱ヘタリシモノ今ヤ成果ヲ見ルニ至リシハ喜悅ニ耐ヘス該企業者ノ多クハ本場ノ指導セル處ニシテ何レモ發展ノ機運ニ向ヒツ、アリ又本縣事業界ノ要望ニ應シ本場職員ヲ割愛シテ其進展ヲ助勢セリ現下熟練ナル技術者拂底ノ際本場ノ之ヲ失損失大ナリト雖モ斯業發展ノタメニ事情ノ許ス範圍内ニ於テ之ヲ忍ヒテ數氏ヲ送リタルナリ其他本場職員ハ物産館、絹織物同業組合商業會議所精練會社等ニ囑托參與員特別議員トシテ關與シ之等勸業諸機關ノ改良發展ニ努力ヲ怠ラス  
 大正六年十月二十九日ヨリ十一月四日迄七日間同構内ナル工業學校ニ記念織物展覽會開設ノ際ハ本場内ヲ開放シテ作業狀態ヲ乘庶ノ縱覽ニ供シ以テ斯業ノ振興ニ資シ以テ地方當業トノ連鎖ヲ親密ナラシメタリ會期一週間觀覽人約二萬五千ニシテ就中十月三十一日十一月一日ノ兩日ハ七千乃至八千ニ近ク工場機械ノ間迄一時ハ立錫ノ餘地ナキ盛況ヲ呈シタリ徒ニ場内ノ雜沓ヲ誇リトスルモノニアラスト雖狀勢此ノ如クナリシヲ以テ相當目的ヲ貫徹シタルモノト推測セラル

職員管内出張調



命令年月日	摘	要	豫定日數	官氏名
大正六年 四月二十六日	實地指導ノ爲メ吉田郡森田村へ出張ヲ命ス		一日	技師伊勢 銚三
全 六月十四日	實地指導ノ爲メ足羽郡東郷村へ出張ヲ命ス		二日	技手西村久三郎
全 六月十六日	實地指導ノ爲メ大野郡勝山町へ出張ヲ命ス		一日	技師伊勢 銚三
全 六月十八日	實地指導ノ爲メ足羽郡東郷村へ出張ヲ命ス		一日	技手西村久三郎
全 七月九日	實地指導ノ爲メ丹生郡系生村へ出張ヲ命ス		二日	技手網島繁次郎
全 八月十五日	實地指導ノ爲メ丹生郡吉野村へ出張ヲ命ス		三日	技手西村久三郎
全 八月二十八日	實地指導ノ爲メ丹生郡吉野村へ出張ヲ命ス		二日	技手西村久三郎
全 九月一日	實地指導ノ爲メ吉田郡森田村へ出張ヲ命ス		一日	技手西村久三郎
全 九月十九日	實地指導ノ爲メ坂井郡春江村へ出張ヲ命ス		一日	技手伊勢 銚三
全 十月二十五日	實地指導ノ爲メ坂井郡春江村へ出張ヲ命ス		一日	技手網島繁次郎
全 十一月八日	實地指導ノ爲メ大野郡勝山町へ出張ヲ命ス		二日	技手森 景
全 十一月十二日	實地指導ノ爲メ大野郡勝山町へ出張ヲ命ス		一日	技師岩下龍太郎

▼職員管外出張調

命令年月日	摘	要	豫定日數	官氏名
大正六年 十二月六日	實地指導ノ爲メ坂井郡三國町へ出張ヲ命ス		二日	技手網島繁次郎
全 十二月八日	實地指導ノ爲メ大野郡勝山町へ出張ヲ命ス		一日	技手中村金三郎
全 十二月八日	實地指導ノ爲メ坂井郡三國町へ出張ヲ命ス		二日	技手網島繁次郎
大正七年 一月四日	實地指導ノ爲メ坂井郡菅原村へ出張ヲ命ス		一日	技師岩下龍太郎
全 一月十日	實地指導ノ爲メ足羽郡下文殊村へ出張ヲ命ス		一日	技手網島繁次郎
全 一月十八日	實地指導ノ爲メ坂井郡春江村へ出張ヲ命ス		一日	技手網島繁次郎
全 三月十九日	實地指導ノ爲メ遠敷、大飯兩郡へ出張ヲ命ス		四日	技手網島繁次郎
全 三月二十六日	實地指導ノ爲メ吉田、大野、今立ノ三郡へ出張ヲ命ス		四日	技師伊勢 銚三
大正六年 四月十二日	織物調査ノ爲メ石川縣へ出張ヲ命ス		二日	技師岩下龍太郎
全 六月二十一日	機業狀況調査及縣下當業者同行實地指導ノ爲メ新潟外一府五縣へ出張ヲ命ス		十一日	技師伊勢 銚三
全 十一月十六日	織物狀況調査ノ爲メ新潟外三縣へ出張ヲ命ス		七日	技手中村金三郎



1421  
323

大正七年九月廿四日印刷  
大正七年九月三十日發行

福井縣工業試驗場

福井市相生町拾六番地

印刷者 薄金次助

福井市相生町拾六番地

印刷所 薄金印刷所

大正七年 一月二十八日		機業狀況調査ノ爲メ和歌山、岡山、愛媛、山口ノ四縣へ出張ヲ命ス		十日	技師伊勢銚三
全三月七日		機業狀況調査ノ爲メ京都府、和歌山縣へ出張ヲ命ス		八日	技師岩下龍太郎
全三月七日		機業狀況調査ノ爲メ東京府、栃木縣へ出張ヲ命ス		六日	技師西村久三郎

職	男	女	男	女	小
員	工	工	生	生	使
一	一	一	一	一	二
〇	九	三	一	一	一

▼場員職工研究生 (大正七年三月三十一日現在)

場長	技師 岩下龍太郎
同	同(兼)森 景
同	書記 山田新藏
同	同 北川 鼎
同	同(兼)高島其作
同	場醫囑託 宇賀治元造
同	同 網島繁次郎
同	同 西村久三郎
同	同 五十嵐 清
同	同 金居久作



終

